



【令和元年度第2回感染症対処基幹要員養成訓練】 令和元年11月15日

11月14日（木）・15日（金）自衛隊札幌病院（病院長：大鹿陸将）は、菊池将補（副院長）を訓練担任官、本間2佐（小児科部長）を訓練指導班長として、感染症対処基幹要員の養成及び練度維持を図り、新型インフルエンザとの強毒性感染症対処における初動態勢を確立することを目的に、令和元年度第2回感染症対処基幹要員養成訓練を実施した。本訓練には、病院の感染症対処基幹要員14名が参加するとともに、陸上自衛隊北海道補給処、北部方面衛生隊及び各駐屯地業務隊から24名が研修を行った。

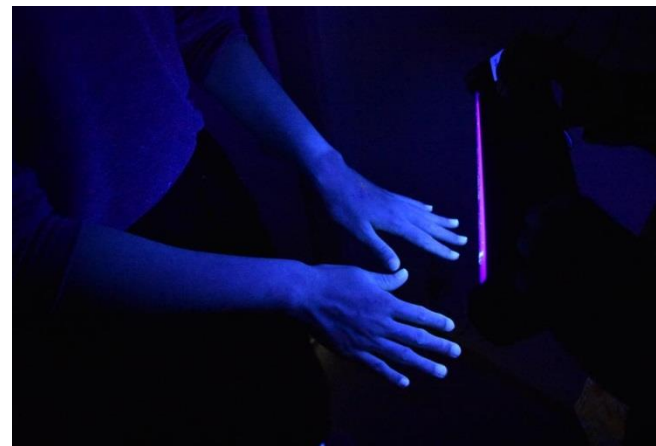
参加者は、感染防護具（PPE）着脱訓練としてPPE着脱後、手袋に塗布した模擬汚染物質（蛍光塗料）が身体へ付着していないかブラックライトで確認することにより、着脱が適切であったか評価し、感染対策マスク（N95マスク）の密着性を確認（フィットテスト）し、感染対策マスクの正しい装着脱着を反復演練し、練度の向上を図った。また、感染症対処資器材習熟訓練として、感染症患者搬送装置（ポータブルアイソレータ）の組み立て及び搬送、紫外線による殺菌（多目的空気清浄機）、病室等の広範囲な環境表面を消毒できる超微粒子噴霧除菌消毒機（シャットノクサス）などの使用方法について練成し、所要の練度に到達した。



訓練開始式・担任官訓示



訓練概要説明



ブラックライトによる確認



PPE着脱要領



感染症患者搬送装置の展示



フィットテスト